

土浦市民憲章

昭和50年12月23日制定

- 1. 互いに信じ 助けあう
あたたかいところをそだてましょう
- 1. からだをきたえ 仕事にはげみ
あかるい家庭を きずきましょう
- 1. 自然を愛し 水とみどりの
きれいなまちを つくりましょう
- 1. 知性を高め 教養をつちかい
文化のみりを ひろげましょう
- 1. 伝統をふまえ 未来をみつめる
若い力を のぼしましょう

一中地区市民委員会

亀城

発行・編集者：一中地区市民委員会・文化広報部会 発行日：平成24年10月15日（月）
 事務局：一中地区公民館内 TEL：029-821-0104
 世帯数 8,844戸 人口 20,173人（平成24年8月1日現在住民基本台帳による）

地域の仲間づくり （三世代交流）



一中地区市民委員会
副委員長 坂本喜久江

七、八月は全国各地で、祭り、納涼祭、盆踊り、花火大会と子供達の夏休みを偉観に開催されます。

それにしても今年の猛暑、お元気ですか。町内の行事を二つ記させて頂きます。一つは祇園祭礼です。昨年当番町でしたが東日本大震災に依り中止となり今年参加する事になりました。桜町四丁目の町内巡行は七月十六日、他町内巡行三日間、実行委員長を中心に町内の理事、新桜会、さくら会、母の会、育成会が心一つにして準備をし、さあ出発です。七月二十日は子供達が登校の為大人だけの巡行、二十一日二十日は子供たちも参加、お母さん方も町内の半纏を着て子供達を見守りながら一緒に山車の綱を引き、お囃子や団体の方々のお力を借り山車の巡行。私も自分の歳を忘れ大きな掛声を出す子供達と共に綱を引く幸せを感じました。最後の日の競演には子供たちも参加し終了後、育成会の引率で事務所先に戻り用意されたお土産をもらいお母さん方と家路に着きました。もう一つは八月十九日の納涼祭です。これは町内の方々との親睦会ですが、祭礼の慰労会として開催さ

れます。二百名近い方々が参加しました。町内には多彩な技量を持った方が居り、テントを張る、提灯を下げる、舞台を作る、買い物に走る等余念がありません。黙々と働いて、誰一人として文句を言っている人はいません。



そば団子作り

当日は焼きそばと焼きとり（新桜会）かき氷（母の会）そば団子（さくら会）の模擬店、他金魚すくい、ピンゴ大会（育成会他）金魚すくいに子供たちが大勢集り、すくえなくても二匹は頂ける、うれしさ一杯です。猛暑の中ですので、かき氷の注文の多いこと、又焼きそば、焼鳥の係は汗だくで、生ビールののおつまみに結構でした。そば団子づくりは高齢者クラブと育成会、子供会の方々にやさしく教えて頂き、楽し

宍塚の般若寺



一中地区市民委員会
副委員長 佐野 道夫

般若寺の開基に至るまでの経緯と文化財について触れてみたい。

平安時代中期に領地の問題から将門の乱が起こった。もともとは同族の争いであったがだんだんと国家権力への反撥になって来たので朝廷はこの争乱を鎮めるため、下野国安蘇郡佐野壮地方に勢力をもつ豪族・藤原太秀郷に争乱鎮撫の勅許を下した。天慶三年二月十四日相馬小次郎将門が打ち首になった。将門の一族は思い思い四散し、安寿姫（当時十三歳将門の次女）は乳母と郎党を共にし筑波山中の「中禅寺」に身をかくした。その後将門の旧友会津の高僧・徳一上人（空海の子弟）のもとに逃れた。安寿姫は、上人の徳を慕って会津磐梯郷の「恵日寺」で剃髮仏門に入り如蔵尼と改め修業に励んだ。

徳一上人の没後、師の遺言によつ

さ一杯です。ここに信頼関係が生まれます。どんな行事でもそうですが、目立たない裏方さん、表に出ての接待、どちらも大切。みんな笑顔で、自分の為ではなく、誰かの為に無心でやる、それが地域づくり、仲間づくりの原点ではないでしょうか。

て京都に行き、関白藤原忠平に仕え忠平の推挙によって大和添上郡の般若寺に入寺、修業して立派な尼僧となった。

関白忠平の計らいにより、かつての祖父良将の領地、常陸国信太郎小堤郷（現在の土浦市宍塚）に一精舎（道場）を建てるのがゆるされたので都を離れ。如蔵禅尼は、この地に来り父将門三十三回忌に当たる日に般若寺として開基した。

開基した当時は尼寺として現在の土浦学園道路の南側の高台にあり、その後現在の地にうった（平安朝期）最も栄えた頃には、寺領四十六町歩、寺屋敷九町歩四面、七堂伽藍が立ちならび、五重塔がそびえる大変立派な豪壮な寺院であったが執権北条時宗時代に一時衰微した。般若寺は数回にわたって大災禍をうけ、栄枯盛衰を経て今日に至っている。

現在般若寺に残っている文化財は銅鐘（国重文建治元年銘）木像釈迦如来立像（県指定・鎌倉時代）石像五輪塔（県指定・鎌倉時代）結果石（県指定・連長五年銘）阿弥陀如来立像（市指定・江戸中期）毘沙門天立像（市指定・室町時代）釈迦如来脇侍普賢菩薩立像（市指定・室町時代）釈迦如来脇侍文殊菩薩（市指定・室町時代）などがある。

般若寺は執権北条時宗がしばし逗留したとの伝承もあり、格式の高い寺である。（父・浜之助資料による）

婦人学級の人成り立ちと活動の一端について

一中地区市民委員会
委員 神立 史子

婦人会は、正式に言いますと、土浦市地域婦人（女性）団体連絡協議会と言います。もともとは、戦前、国防婦人会であったのです。現在はあまり長い名称なので、地婦連と呼んでいます。

婦人学級は四十年ほど前に、教育委員会の御指導により、女性の資質向上を計るため設立されました。

各地域からの希望が少なかったため母の会と地婦連（婦人会）にも学級を作る様に、話があったと聞いています。しかし二つの会は、それぞれに会の行事に特徴があり、普通の学級と異なる為、地婦連の行事の中より、婦人学級の行事に合ったものを選び報告しています。昨年三月十一日、東日本大震災が起こりました。土浦市では、水郷体育館を開放して、福島県の第一原発のすぐそばの双葉町、いわき市の平、勿来から避難した約五百人の人達を受け入れました。三日位過ぎた頃、地婦連箱根会長から桜町三丁目の会員が、湯を沸かすボランティアを頼まれ行って来たとの話を聞き、私共にも出来る事を応援しようと相談し、体育館の担当者、何が必要かを聞き、すぐに各地区の役員に電話をして、三月

二十六日に品物を持ち寄り、仕分けした物を、大振りのダンボール四個に詰め込み体育館に届けました。

その後、県の地女連でも慰問品集めや、その他の応援を度々行い、私共も精一杯の協力をしました。現在も進行中です。

又土浦市の地婦連は、赤十字の協力員になっていきますので、赤十字の研修をしたり、かすみがうらまらソンの際には、毎年、道路清掃・豚汁サービスの手伝いを行って、微力ながら、ボランティアにつとめています。（筆者は現在一中地区婦人学級代表です）

蓮田を行く山車

一中地区市民委員会
委員 雨海 隆

「ピーヒャラ・ピーヒャラ・カン・カン・ドンドン ノツテケノツテケハスカワラー」七月最後の土・日は蓮河原地区のお祭りです。主催するのは、町内有志で結成している「霞会」で、町内会の助成と育成会の協力により毎年手作りのお祭りを開催しています。

祭りの日の前に、子供達は公民館に集まりお囃子の稽古を始めます。一・二年生は鐘、三・四年生は太鼓、五・六年生は笛を習うのです。指導するのは霞会の方々で、休日を返上して子供達に祭りの伝統を伝えてお

ります。毎回休まず練習に通うと、山車の上で演奏できるとあって、子供達も熱心に稽古をしています。

いよいよ祭り当日。育成会のお母さん達は、大きな釜でご飯を炊き、シヤケやウインナーを焼いたり、おにぎりを作ったり、大忙しで百人分位のお弁当を用意します。

日曜日のお楽しみ夕食はカレーライスです。毎年大人気で、お代わりをする子供達の笑顔に暑さも疲れも、ふきとばしてくれる魔法の力があります。最近では、仕出しのお弁当を用意する所もある様ですが、育成会や霞会の皆さんのおかげで子供達に多くの経験や思い出を残してあげることが出来るのです。

美味しい食事も終え、あとひと踏ん張りです。提灯に燈が入り、祭りも佳境に突入です。一段と大きく響く囃子につられ、子供達も大きなかけ声で祭りを盛り上げます。そして、蓮河原地区ならではの光景が目に入ります。

ほんのり灯る山車が、暗い蓮田の中にくつきりと浮かんで、まるで幻想の世界に連れ込まれたような錯覚に陥る位、美しい光景なのです。子供達の奏でお囃子は、霞ヶ浦の水面に響き、やがて舵を大きく取ると、綱を引く子供達もよりいっそう力が入り、その横で大きな蓮の葉や可愛いつぼみ達もゆらゆら踊っているように風になびいている光景は、心にジーンと

くるものがあり、この祭りをずっと続けてくれている霞会を始め、協力してくれる町内会、育成会の有志の方々に心より感謝を致します。

地域性を生かした祭りの光景は、子供達が大きくなっても心の中に残されていく事でしょう。そしていつか、祭りを支える立場の人になってくれることを心より願っております。(筆者は現在蓮河原新町地区長です)

市民委員会に参加して

青少年相談員
一中地区ブロック長
篠 捷子

私たち一〇六名の青少年相談員は土浦市から委嘱され、各中学校区で活動しています。一中地区内では、小中高からの各一名の先生方と市民である私たちの合計十三名が青少年の健全育成のために、一中地区内の環境整備や学校近辺、駅前の見回りなどを行っています。

ブロック長になったことで、初めて市民委員会へ参加し、公民館での様々な事業に関わることとなりました。多くの事業が区長を中心に運営されていることでした。その中でも一番大きな事業である公民館まつりの委員になって感じたことは、特に区長をはじめ、多くの方の支えがあって運営されていることを知りました。私は芸能発表会のお手伝いを致しましたが、出演される皆様の熱演に観

客の皆様も大きな声援を送り、会場は盛り上がりつつありました。ただ、公民館から離れている地域の方の参加が少ないことは残念ですが、大変な賑わいになっていくこと、発表することを楽しんでいく姿を一中地区の多くの方に見て頂ければと思います。係を持っていると、他のイベントを見られないので、詳しいことは分かりませんが、もっと多くの方に参加してほしいと感じます。特に若い力が必要ではないかと思えます。

市民委員会の運営は区長の皆様の協力で成り立っているのですが、更に、各地域から若い方々が自主的な形の参加で運営されるような形になっていくことが、望まれる時期に来ているのではないのでしょうか。多くの方にこの組織を知って頂くような広報が大事なことです。

一中地区の中心としての公民館から色々な楽しい行事を皆様に提供していくお手伝いができ、多くの方との新しい出会いと楽しい経験をさせて頂き感謝しています。(現在の役職 土浦市青少年相談員連絡協議会会長)

市民委員会 専門部の活動

スポーツ健康部の活動

夏空の下

部長 古徳 洋一

今年はロンドンオリンピックの年であり、スポーツによって多くの人

に感動を与えたことと思います。スポーツはプレイするだけでなくさまざまな関わり方によって楽しめるものだと思います。

スポーツ健康部は従来の事業に加えて実際に地域の方にスポーツ種目に参加してもらうという事業を実施しました。

これは地域スポーツクラブである土浦スポーツ健康倶楽部で定期的で開催している教室に体験的に参加するという方法で連携したのです。

種目は、バドミントン、グラウンドゴルフ、ノルディックウォーキング、ヨット・カヌーの四種です。

スポーツを気軽に、そして生涯を通じて楽しめる地域にしていきたいと考えています。



ノルディックウォーキング



グラウンドゴルフ



ヨット・カヌー

環境部の活動

部長 船津 寛

本年度の環境部総会は五月八日、一中地区公民館に於いて行われ、行事計画を次の通り決定しました。

①春の花いっぱい運動

この運動は、年度始めの最初の行事ですが、土浦一中地区公民館をはじめ、土浦観光協会、中城クラブ、まちづくり活性化土浦の皆様により、まちかど蔵や商店街のプラントーが花で飾られ、広がりを見せております。

②花火大会後の清掃

毎年、花火大会後の翌日、朝六時三十分より櫻川河川敷の一斉清掃を行っております。環境部員以外に、地区長さんの呼びかけで、多くの市民の御参加を頂いております。毎年、ゴミ袋、ちりとり、ホーキ、軍手などは環境部で用意致します。今年も櫻川の清掃活動にご協力くださいますようお願い申し上げます。

③一中地区公民館まつり

今年の公民館まつりは十一月に行う予定です。子ども達にゴミの分別と収集の関心を持っていただくため、空き缶、ペットボトルの回収本数により、抽選で景品を差し上げております。子ども連れでご参加下さいますようお願い致します。

④施設見学会

昨年度は茨城県企業局南水道事

務所阿見浄水場と霞ヶ浦・常陸川水門を見学した後、千葉県佐原市内を散策し、好評を頂きました。本年は、役員会で協議し那珂川と霞ヶ浦の導水事業を見学する予定です。日程と詳細な計画ができましたらご案内いたします。

最後に、霞ヶ浦の放射線問題があります。霞ヶ浦に流入する河川から福島原発による放射線が霞ヶ浦に蓄積し、その濃度が高くないか、住民の内部被曝が発生しないか等の心配です。霞ヶ浦の放射線のモニタリングを定期的に行い、その結果を公表し市民に知らせ、対応を検討する事が必要と考えます。



福祉部の活動

地域福祉活動とは

部長 加藤 千枝

千束町は二百戸足らずの小さな町内だ。それ故夏祭り等の行事で人手不足に悩む事も多いが町内住民がほ

ぼ顔見知りであり高齢者や子供達に皆の目が届きやすいなどの利点もある町だ。私はこの町で市民委員会の福祉部員をしているがこの委員会の目的とする地域福祉への参加協力とはどのような事か、地域で子供から高齢者まで全ての人に対する福祉活動とは何をすれば良いのか考えることは多い。

今、世間で昨年の大震災以来人々の「絆」の大切さが大きく取り上げられている。人間は苦境に立った時「自分は一人じゃ無い、見守って呉れている人が居る」と思う事が一番の救いになるそうだが、これは災害時だけではなく日常生活においても同じ事だと思ふ。高齢で話し相手が無く寂しい人、子育ての悩みを抱えて近所に相談する人が居ない人など、近くに話を聞いてくれる人が居たらどんなにか心強いであろう。その部分を地域で埋める事を目的に三年前「サロン千束」を立ち上げた。高齢者クラブの会員を中心に月二回集会所で茶菓を用意し誰でも気軽に立ち寄りおしゃべりできる場所を作った。皆が集まり世間話をする中でいろいろな情報が得られ声掛けが出来たり、カラオケで気分転換することも出来る。親しく話が出来ると相手の増えた人もいる。最近では町会の奉仕作業の参加者も多くなり、今年

は敬老の集いを子供育成会と共催するという計画もあって地域住民の輪

が一回り大きくなった様で嬉しい。まだまだ課題も多いが町内会・育成会・高齢者クラブが協力して地域の和を広げて行こうと思つている。

青少年育成部の活動

部長 津久井栄蔵

チャレンジクラブ事業は、一中地区の小学四年生、五年生、六年生、総員三十名で年十回の活動をしている。

チャレンジクラブには、次の三つの約束がある。
・いつも元気にあいさつをする。
・どんなときでも友達を大切に。
・どんなことにも思い切つて挑戦する。
以上を守りながらのびのびとします。

【今年度活動計画】

五月十九日

開講式

サツマイモ栽培に挑戦しよう！

六月二十三日

おもしろ理科先生と実験を楽しもう！

七月二十八日

飛行機の歴史や模擬操縦を体験しよう！

八月二十五日

霞ヶ浦環境科学センターまつりに参加しよう！

九月十五日

楽しいスポーツに挑戦しよう
グランドゴルフを楽しもう

十月二十日

サツマイモ掘りをして、バーベキューで収穫を祝おう！

十二月一日

関東の名山！紅葉の筑波山に挑戦しよう！

十二月十五日

チャレンジクラブ連合で音楽鑑賞会 ミニ音楽会

一月十九日

マジックバルーンに挑戦しよう！
二月十六日

手巻き寿司を楽しもう！
閉講式と一年間の感想発表会

みんなの広場

環境問題に取り組み明るい町づくり

佐野子町 阿部 千賀代

花畑・花壇づくりをすることになったきっかけは、高齢化による耕作不能農地になった荒地に大量の古タイヤが不法投棄されたため、今から十年位前に土浦地区交通安全協会西部分会の会員と同母の会の会員が不法投棄の阻止と荒地の耕作地を解消することを目的に活動を開始した。

この十年の間に、荒地を花畑や花壇にする運動は、「佐野子町花愛好会」「佐野子町内会」「佐野子あやめ園」「阿部企画」等その活動の輪は広がっていった。
個人事業者のなかには、前庭に花



壇をつくり従業員のお癒しの効果が大きいところも出てきた。又老老世帯で後継者がサラリーマンのため、佐野子菜園花園として花ばかりでなく野菜の栽培を取り入れたところもあります。

花いっぱい運動の効果として放置されていた空き地が一ヶ所宛少なくなることで、不法投棄されることが目に見えてなくなりました。今では、花の咲き誇る名所の一つとなりつつあり、大人から子供迄住民の目を楽しませている。二つ目は、町内会の花畑づくりが高齢者の多くが参加することで、高齢者を見守る気持ちが増し、高齢者が住み良く、安心して暮らせるようになった。三つ目には、花畑や花壇は、学童の通学路に面しているところがあり、四季折々の花をめながら心がなごみ、学童の非行防止にも役立っている。

※佐野子住民の交流の場として毎年六月第一土曜日に「佐野子 かつば祭り」を行っております。

イルミネーションを観に行こう

桜町三丁目 金子 秀夫

十二月に入るとクリスマスシーズンになり、イルミネーションのお飾りがアチラコチラで観ることができ

ます。
土浦市内においても繁華街や商店街でも、イルミネーションのお飾りを観ることが出来ます。

特に505の名店街や、土浦駅前
の広場においても、見事なイルミネーションのお飾りを観ることが出来ます。

土浦市内のウララ商店街では、十二月二十五日までの点灯期間中は白と青の基調に大人の「クリスマス」をイメージしたイルミネーションが町並みと駅前を華やかに飾り、屋上十メートルからのロープライトは迫力満点、駅前二階入口にはハートとサンタクロースのおじさんが出迎えてくれます。

また、土浦市内の商店街においても、クリスマスイルミネーションを観ることが出来ます。

さあ、期間中、ご家族おそろいでクリスマスツリーを観に行きましょう。

同好会だより パッチワーク同好会

会長 伊藤イブリン



一中公民館で講座として始まった会、その後：同好会となり、十八年

が経ちました。

現在、講師の先生が病氣療養中のため不在ですが、生徒同士教え合い作品を作っています。

クリスマス会などを行い親睦をはかり、またキルト展で観賞しパッチワークの楽しさをあらためて実感しています。

参加者は初心者からベテランと、また年齢も四十代から六十代と幅広く、いつも笑顔の絶えない同好会です。

基本的な活動日
月二回 第一・第三木曜日
午前十時～十二時です
随時参加受け付けております。

同好会だより ウクレレ同好会

会長 藤野 みき



私たちのウクレレ同好会は、ハワイアンソングとウクレレ好きの人達が集まった楽しくゆるい会です。

普段は月に二回、土曜日の午後活動しています。ウクレレは、カワイイ楽器です。見た目も演奏姿も音色もおもげに楽器の値段もカワイイので、カワイイ好きの女性や初心者にも取り掛かりやすい楽器だと思います。

最初に同好会を立ち上げた時には、これ程長く続くとは思いませんでしたが、ゆるーくやってきたせい

か、気が付けば八年目を迎えることになりました。この間には、会員が半数に減った時期もありましたが、二年前に一中地区へ移動したお陰で新会員も増え、活動の場も以前より広がってきました。

昨年からはじめた、高齢者施設へのボランティア演奏会も年に数回と、なかなかのペースで続いています。ボランティアの時は、ホクラニ（ハワイ語できらめく星の意味）・ハワイアン」というバンド名で演奏しています。ちよつと面映ゆい心持ちもありますが、お客さんに喜んでもらい、「楽しかったよ。また来てね。」と声を掛けられると、こんな私でも世の中の役に立っていると思えて、満足感に浸ってしまうのです。



ウクレレ同好会

演奏するカワイイすぎるおばあちゃんがいる同好会なんて紹介されたら、すごく恥ずかしくて嬉しいだろうと思っっています。

同好会だより
フラワーネットつちうら
ラベンダークラブ
 事務局 酒井 昌子

私たちのボランティア「フラワーネットつちうら・ラベンダークラブ」は「花・大好き人間」が集まって、平成二十年四月二十六日に発足、現在三十数名で活動しております。

手入れ場所は①霞ヶ浦総合公園 ②土浦駅西口、ウララ広場とペデストリアンデッキ ③土浦駅東口入口と駅前花壇 ④田中八幡通り植樹マス ⑤中央花壇 の五ヶ所です。春・秋の植込み、月二回〜四回の手入れが主な作業です。四季折々の花々を楽しみ、またラベンダーの香りに癒されるようにと植える花も工夫しています。

組織体制も充実し、事務局のもと、庶務・企画・広報・会計・から成る運営委員会を設置しております。月一回の委員会は、年間行事の検討、手入れ場所の課題点、要望など、活発な意見交換、話し合いをする貴重な場です。

さらに、私たち自身も花の知識を養おうと、土づくりやラベンダーについての勉強会もしてきました。ま



土浦駅東口の花壇の手入れ

た「花が大好き」というチョットとしたきっかけで知り合った仲間です。で、会員同志の交流も深められたらと、新年会、ラベンダーの花かごづくり、ブルーベリー摘み、ローズガーデン見学など、お楽しみ行事も企画しています。

発足して十二年、手入れ場所も人も増えたり減ったりですが、熊澤康子代表を中心に「私たちのまちは私たちの手で」をコンセプトに「駅を降りたらラベンダーの香りがするまちに」と思い描きながら、市民参加による「まちづくり」に取り組んできました。

二年前の発足十周年の佳節には茨城県より都市緑化功労者として、茨城県知事賞を頂きました。日頃の活動の賜と会員の皆さんに感謝でいっぱいです。

ラベンダークラブは発足二十周年へ新たな気持ちで活動を始めています。すべてがスムーズとはいきませんが、皆で力を合わせ、ひとりでも多くの方に、特に次の世代の若い方々のお力もお借りして「元気なまち土浦」に住みたいまち土浦を目指して活動していきたいと思えます。「ご苦労様」「きれいですね」「皆さんのお陰で楽しませて頂いていますよ」との言葉を力にして…。

編集後記

猛暑の夏、そして節電の夏も終わり仲秋の名月の十月に第二十三号をお届け致します。

役員の方々より町内のお祭りや文化財などのご寄稿五編「みんなの広場」へ地域のことなどへの思いのご寄稿、専門部と同好会からそれぞれの特色ある活動状況などの報告。ご寄稿頂いた皆様に編集委員一同心より感謝申し上げます。

（今回の編集に携わった方々）

- 渡部敬三 桜井昌子 柴沼美津子
- 岡部恒文 大槻正義 矢口敦雄
- 安達久恵 以上七名

